

暮らしの中での“ふるさと”づくり <一人ひとりが責任と役割を果たせる開かれたコミュニティを目指して>

背景と視点

- 背景：転換期にある日本社会
 経済の成熟化と社会の閉塞感 既得権益に左右されず切磋琢磨し幸福を追求
 人口減少と少子高齢化 一人ひとりの個性を尊重し能力の発揮を促進
 生活スタイルの多様化 人と人のつながりを再構築し創造と共生を実現
 東日本大震災 家族や地域の絆と支え合いの大切さの再認識
- 視点：兵庫県の地域づくり施策の展望
 安全安心で持続可能な地域づくり 責任を持った行動
 一人ひとりが輝く地域づくり 個人が努力し、生き生きと活躍
 市町を通じて県民と取り組む地域づくり 広域的な観点等による県の支援

第1章 現状認識

1 家族と地域を取り巻く状況 <人口と高齢化率[県]>

(1) 家族と地域の変化

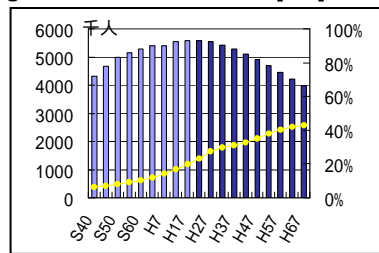
* 1世帯当たり平均人員[県]

3.02人 22.44人

65歳以上単独世帯率[県]

男性 S55 5.35% 22.12.36%

女性 S55 13.54% 22.23.38%



1日に家族が揃うのが0~2時間[全国] S60 42.1% 49.2%

* 近所付き合い(よく付き合っている[全国] S61 49.0% 23.20.3%)

* 雇用形態(非正規雇用[全国]元19.1% 23.35.2%)

(2) 地域が直面する現状から

* 孤立死(UR賃貸住宅内[全国] 207人 21.665人)

* 自殺([県] 900人 23.1,303人)

* 児童虐待(相談件数[県] 679件 23.2,272件)

* DV(相談件数[県] 9,030件 23.14,441件)

* ひきこもり([県] 22推計値3万人、支援を受けているのは4.9%)

* 消費者被害(70歳以上の相談件数[県] 13.3% 23.21.2%)

* いじめ(千人あたり認知件数[県] 2.0人 23.1.7人)等

2 県内各地域の多様性

* 地域特性：多自然地域、地方都市、ニュータウン、都市部等

3 兵庫県の県民生活行政

(1) これまでの取組

* 生活の科学化 生活の文化化 生活創造

* 県民運動：学習、福祉、環境、防災等様々な形で提唱推進

* 参画と協働：知恵を出し合い力を合わせて主体的に取り組む

(2) 今後の方向性

* 県民運動や県民交流広場事業等で形成された人間関係等を活用しながら、兵庫県の県民生活行政を推進することが必要

第2章 事例等から見えてきた方向性

1 絆の形成

<愛情を持ってお互いを認め合い、一人ひとりがつながっていく>

(1) 家族のつながりを見直す

家族として暮らしやすい関係づくり

ア) 家庭生活と仕事を両立できる働き方

イ) 家族の共有体験となる機会

(2) 地域のつながりを考える

“向こう三軒両隣”からの重層的なつながり(区域に応じた課題と活動)

いつでも個人や家族の支えとなりうる地域

ア) 地域が持つ経験や知恵、思いやりの心で個人や家族を支援

イ) 育児、介護、引きこもり等の同じ悩みを持つ人が集う場所

ウ) 個人や家族を孤立させない地域のつながり

地域の魅力の共有と伝承

ア) 地域の文化・伝統の継承と育み

イ) 情報紙やインターネット等を利用した情報の相互発信

自律的な解決

帰属意識の広がり

2 支え合いが持続するしくみ

<つながりの中で自立し、一人ひとりが役割を担う>

(1) 誰もがそれぞれの形で地域に関わる

課題解決への意識づけと協働

ア) 住民一人ひとりが関心を持つしくみ

できる人が、できるときに、できることをするしくみ

ア) 気軽に立ち寄れる地域のたまり場づくり

イ) 各自の技術、技能や経験を生かした活動の促進

企業、学校・大学等多様な主体の関わり

ア) 地域づくり活動が評価されるしくみ

イ) 地域全体を学びの場とした学校・大学との協働

(2) 活動が地域に根ざして続いていくしくみをつくる

裾野の拡大

ア) 地域内外に潜在する人、モノ、情報の活用

イ) 強い課題解決力を持つネットワークの形成

資金の確保

ア) 地域住民が支え手となる生活支援サービス

イ) ビジネスの手法を取り入れた課題解決

ウ) 地域の持つ個性を生かした循環

第3章 暮らしの中での“ふるさと”づくり

1 開かれたコミュニティとしての新たな“ふるさと”

一人ひとりが大切な心の拠りどころとしての“ふるさと”を再確認し、責任を持って関わる

キーワード

多様(同質)

柔軟(固定)

自立(依存)

創造(踏襲)

2 “ふるさと”づくりのポイント

(1) “ふるさと”意識を持つ

“ふるさと”への想い

生命のつながりを実感し、他者への思いやりを育む
 家族がお互いに認め合い、関係を結び直す
 ともにつくってきた地域の価値を認識して伝え、一度離れた人や新しく来る人、短期の居住者とも触れ合い新しく創造する。

自立した個人同士の関係づくり

家族や近隣関係を基盤に信頼と共生の心を育む
 一人ひとりが役割を持ち自立し、他者との関係を築く

顔の見える生活圏での取組

日常生活の中、地域での人間関係をつくり活動する
 住民が情報をやりとりし、力を合わせる

地域の一員としての自覚と行動

地域の課題を住民自身の視点から提起する
 目標や課題を自らのものとして共有する

多様な主体の能力の発揮

課題に応じた地域のリーダーを核としてともに取り組む
 地域を超えた人・モノ・情報の交流を活用する

(1) 考え方 (2) 県への施策提案

3 “ふるさと”づくりの推進方策

青少年期の体験を通じた学びの推進
 お互いに“話し合い”できる力の養成
 誰もが参加できる開放的なネットワークの形成

少年期の“ふるさと”(自然、文化等)体験プログラム実施
 青年期の“ふるさと”貢献活動促進
 地域課題について学習する機会の提供
 地域の合意形成のしくみづくり
 多様な主体の協働による地域経営の支援
 “ふるさと”で活躍する人の紹介